

私たちの世界へようこそ

<デンマークの子育て事情>

お話：澤渡夏代 Brandt

レポート：山城義勝

★デンマーク紹介

デンマークは高レベルの福祉国家でありながら、国民一人当たりの所得が世界上位で、女性の社会参加とそれを支える社会の仕組みが最も進んでいる国だと言われています。

また、所得格差が世界一少なく、高い税金を負担しながら世界で最も幸せと感じている国民であり、人が資源で、人々が平等でいられる高度な民主主義社会であり、楽しいことを大切にしています。



★私たちの世界によろこそ！社会サービス

デンマークの社会保障は充実しています。

- ①バースコントロール（望まれて誕生）
- ②産休・育児休暇 52 週
- ③医療費無料（ホームドクター制度）
- ④乳児・幼児保育の完備（自治体運営）
- ⑤学童保育、青少年クラブの完備（自治体運営）
- ⑥教育費無料
- ⑦18 歳まで児童手当給付（約 2 万円）
- ⑧18 歳まで公費歯科診療
- ⑨各種年金、社会扶助金、Etc。また、生活に合わせてフレックス産休があり、今まで任意だった 0 学年を義務教育に取り入れました。しかし、難民の子どもの数が 5～6 人と多かったため、子ども手当を 3 人までと制限したように世の中の流れにより社会保障制度も変えています。

★子どもの位置づけと居場所

子どもは社会の宝として考えており、子

どもの誕生祝に「民主主義」をプレゼントし、子どもは子どもらしく育てています。日本ではどのような人間になって欲しいかと言えば、両親は優しい、良い子、育てやすい子と回答が多くなっています。また、デンマークでは難民の親が保育園等などを利用せず、家でみると子どもがデンマーク語を覚えられず、言葉の壁ができてしまい、孤立してしまうことがあります。

保育は自治体の義務となっています。（自治体負担 75%保護者 25%）

子どもはどこに？（2014 年）		
0 歳児	17.7%	
1～2 歳児	89.6%	乳児保育園 保育ママ
3～5 歳児	98.0%	保育園
6～9 歳児	81.6%	学童保育
10～13 歳	14.2%	青少年クラブ
14～18 歳		青年クラブ

★育つ環境は？

- ①グループ志向（みんなと同じで安心）
日本は集団で活動。もらうメダルも見本をみて同じ物を作る。
- ②個人志向（みんな違ってみんないい）
デンマークでは見本のメダルがなく、色や形も自由に作り、個人を大切にしている。

★デンマーク社会が求めている人間像

(Vision)

- ①自分でものごとを考え、判断できる「自立した人間」
- ②自己決定・自己管理 「個の尊重」・・・個を尊重し自己決定を促す⇒自分で自分の人生を選ぶ⇒生きる喜び・仕事への喜び
- ③連帯の尊重（結束する重要性、社会の中の一人）
みんな違ってみんないいという考え方です。

★どう子どもと向き合うか

子どものときから「自分で決定すること」を経験しており、「あなたはどう思う？」「あなたが決めなさい」と時間をかけて対話しながら、色々な選択肢の中から選べるように見守り、自分で決定できるような力を引き出していきます。「子どもに話す」toは上から目線で日本に多く、「子どもと話す」withは子どもと同じ目線で年齢は関係なく、デンマークでは対等な関係を表しています。

★デンマークの教育のコンセンサス

《国家繁栄の鍵》

- ①教育は何のため 生きるため・教育と職業の連携
- ②全人教育 人間として豊かに「学びは内からくる動機がなくてはならない」

- ③個の尊重 個を尊重し自己決定を促す⇒自分で自分の人生を選ぶ⇒生きる喜び・仕事への喜び
- ④義務教育後 多様な選択肢
- ⑤入学試験も塾もなし、



食事はビッフェスタイルで、自分で食べる量だけ取り、自己責任で全て食べる。子どもがナイフを使用して木を削るときは約束事として隣に大人がだまって見守っており、近くに子どもがいないようにしています。多くの子ども達が将来のことを中学2~3年で決めており、学びたいというモチベーションを大切にし、 $1+1=4$ と答えた場合は間違いを指摘せずに何故、そのようになるのかを聞き、理屈が合えば良いとしています。

学校の先生は9年間、同じ先生で基本、変わることはありません。自習中は寝そべっても自分が書きやすい方法で自習しても良く、失敗は指摘せず、成功を見つけるようにしています。また、先生がテーマを決めてグループで考えながら発表する授業を行っています。

★自立を促すシステム

(1) 学生援助金 (SU) (1 Kr. = 20 円計算)

実家・・・2,574Kr. 51,480 円

独立・・・5,177Kr. 103,540 円

(2) 見習い給料制度

例：社会・保健ヘルパー／アシスタント
養成学校

18 歳からは成人としてみなされ、公費で適材適所の教育を受けることができ、教育を受けながら給料をもらうことができます。高校は試験が少なく、実技が多くなっています。最近では難民、移民に対して学生援助金の反対が多くなっています。

★自分の事は自分で・・・自立

18 歳以上になると成人となり、自分のことは自分で決めます。進学、就職、結婚、離婚も自分で決めたら自己責任になるので、親には事後報告が多くなっています。

日本社会では「出る杭は打つ」が多いですが、デンマークでは個性を認めて「出る杭は育てる」ようにしており、自己肯定感 自信を持つことが大切にされています。

愛されれば、その子は人を愛する大人になり、社会に愛されれば、その子は社会の大事な人材となります。「国を愛せよ」ではなく、「国が愛す」考え方が根付いています。



★Q&A

Q：試験はどうなっているのか？

A:入学試験はなく、塾もありません。国民学校が9年生で私立もあり、進学先は高校、技術大学、職業訓練校などがあります。サラリーマンだけを必要としていません。本人の希望を聴いて担任が進路を見極めませんが、適材でないと試験を行います。基本は学校推薦となっており、高校のポイントで進路先が決まりますが、希望者が多いとポイントが上がり、入るのが難しくなります。試験に落ちても来年、再挑戦が可能です。バイトするとポイントが上がります。入学しても卒業することが大変になっています。

Q：移民を減らせといわれていると思うが具体的な対策は？

A:これまで移民に対して手厚く支援してきたが負担が大きく、転換期を迎えています。難民認定されるとすぐに生活費、住居が与えられますが、新しい政党が移民反対、EU離脱を唱えており、デンマークでも難民に対して危機感を覚えています。